

令和 4年度 園評価書

園番号 34

園名 庵原こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かでたくましい子	自分らしく表現することを楽しむ	自ら、興味や関心を持った物・事にとことん向かう姿がある	乳児は保育教諭や友達、年上児のしていることに興味や関心を持ち、自ら真似をしてやろうとする姿がある。幼児になると興味や関心を持ち挑戦する姿も見られるが、自信がない為、諦めてしまうことがある。	B	B	【評議員①】 園庭が広くて小さいお子さんから大きいお子さんまで一緒に遊ぶ姿がありとても良い。	【可動遊具を増やし選べる環境の充実を図る】 【教材研究の場を設ける】 ・どんなものがあると子どもが選べて遊びの拡がりに繋がるか『可動遊具』の物の情報や意見を職員間で出し合い環境の準備を行う
		自然の中で直接触れる体験を通して豊かな感情、好奇心、思考力が培われている	広い園庭内には様々な草花や生き物に出会うことができ、自園の強みでもある。子どもたちは触れたり親しんだりすることが出来ている。その一方で園外の自然に触れる機会は少なかつた。	B	A	【評議員②】 9月、災害にあった一乗寺の土砂の土を築山に利用したことは良い。職員の方が一生懸命に環境作りに取り組んでいると思う。	【散歩計画を立て実行する】 ・園外の自然に触れる(サルガニ・どんぐりなど) ・どんな経験をさせたいか、育まれるものは何かと願いや振り返りを日誌に記述する
		達成感や充実感を味わい「今日も楽しかった」「明日も続きをしたい」と遊びが展開している	サラ砂作りやブロックなど自分で作ったものを親にみてもらったり褒めてもらったりすることが次への意欲に繋がっている。作ったものを持って置いたり遊ぶ姿を視覚的に写真で掲示することで遊びの継続に繋がっている。	B	B		【ミニ幼児会議を実施】 ・子どもの姿を職員間で伝え合い遊びの展開に繋がるような環境を考える

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標を十分理解し発達に合わせ保育を進める	発達に合わせた保育を進めていく為にケース会議を毎月行い子どもの姿と発達段階を重ね支援の仕方を話し合っている。支援の仕方を学び保育で実践し、保育教諭の関わりや子どもの変化等を振り返り、その過程を次回のケース会議で報告している。	B	B		【学期ごとの振り返りの実施】 ・学期ごとに子どもの姿と学年目標を照らし合わせ評価していき、課題となる点から環境の見直しを図っていく
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	子どもが安心して園生活を送れるよう1人1人の家庭の背景や情緒に合わせスキップを図ったり1人で過ごせる場所や遊びたい場所を保障したり満足できるまで遊べる時間の保障を心掛けていることで、自ら切り替え次への活動へと行動する姿も見られている。	B	A		【空き部屋を活用】 ・園全体の保育室を見直し、子どもが気持ちを切り替えたり落ち着いて遊べたりする場所の確保をしていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもたちが、気づく、考える、試すなど五感を使って工夫できるような魅力ある環境が用意されている	B	B		【保育環境を振り返る時間をつくる】 ・他園や他クラスの環境を見て振り返る ・発達に応じた環境を準備する為の時間を保障する《教材研究》
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	災害時に取るべき行動がとれるように、様々な状況に応じた訓練を行っている	年間計画に沿って避難訓練や不審者訓練を実施している。子ども達は保育教諭の指示に従うことや身を守ること等が見についてきている。保育教諭は様々な状況(想定)の中で臨機応変に判断、対応できるようにしていきたい。	B	B		【実施報告書の書式を検討】 ・評価と課題を簡潔に記述する書式 【振り返る場を設ける】 ・訓練日に振り返る場をつくり口頭で伝える
		(1)健康教育の充実	健康な体に必要な基本的生活習慣を子どもや家庭にも日々の生活習慣の中で丁寧伝えている	B	A	【評議員③】 子どもを預けているが先生方がとても子どもに寄り添ってくれていると感じている。どうしたら子どもが楽しめるかを考えてくれている。	【生活習慣に視点を置いた子どもの姿を捉える】 ・学期ごとに子どもの姿から養護面を振り返る為の会議を実施。保育教諭の意識やかかわりを深めていく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	その子の好きなこと、得意なことを十分活かして園生活が楽しめるようにする	保育教諭はケース会議で子どもの好きなことや得意なことを職員間で共有しより楽しめる環境づくりや本児の良さを認めることで自信に繋がる為の関わりをしている。又、問題行動に対して行動分析を行い関わり方を学び合い話し合う場を持つようになっている。	B	B		【園内研修を実施】 ・特別支援に関する研修会を前期に実施し支援方法を学んでいく
		(1)組織体制の充実	分掌として企画や運営に取り組んでいるが、役割や内容の分担が分散されず仕事を抱えがちになってしまった。また、企画内容が全職員においてくのが遅い面がある。見通しを持ち、声を掛け合い、早めの話し合いや準備をするようにする	B	B	着替え一つにしても毎日の着替えた衣類も畳んで持って帰って来るようになり先生の丁寧な関わりに感謝している。家でも進んで畳んでいる姿を見ると成長を感じる。知り合いからも成長したと声を掛けてもらい嬉しくなる。日々、子どもが楽しく園に行けることに感謝している。	【分掌の見直し】 ・子どもの実態を踏まえ『楽しい もっとやりたい』と思う保育内容になる為に来年度の行事の取り組みを具体化していく。 【園内研修体制の見直し】 ・指導計画を活かした内容 ・環境構成についての情報共有 ・年齢に見合った遊びの提案
6 研 修	(1)研修体制の充実	ワークシートを活用して、保育の課題を職員間で共有し、環境や子どもの発達に沿った支援をしている	職員は研修に参加した後、会議の中で学んだことを伝え他の職員も学びを共有している。又、研修内容を職員におろしグループ討議を実施し学びを深めている。月間指導計画を中心に振り返りの場を今後も作り、共有を深めながら環境構成へと繋げていく。	B	B		【環境会議を実施】 ・隔週毎、環境を見直し整備、工夫をする ・自分のやりたいことが選べる物的環境とやりたい気持ちを認めてもらえる人の環境を深め実践に繋げる
		(1)教育・保育環境の充実	遊びに十分に楽しむ時間や場所は保障されている。子どもの姿からコーナーやスペースを作り、年齢に合わせて遊びを保障することで「○○やろう」と友達を誘って遊びだす姿が見られている。	B	A		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	お便りや毎日のボード、参加会を通して遊びの様子を写真等で紹介し子どもの成長の喜びや園の理解が深まるようにしている	クラスだよりやボードに写真を載せて子どもの姿を伝えるようにしているが保護者のボードに対する関心はそれぞれで見落としや伝わらないこともある。個別の対応が必要な時もあるがどうしたら見えてもらえるか改めて考えていきたい。	B	B		・面談に園長や副園長が参加したことが保護者の安心に繋がっていることが保護者アンケートの結果からみえてきている。来年度も園長、副園長が参加した面談を引き続き実施していく
		(1)近隣の園との連携の推進	地域の小学校の公開授業参観に正規職員だけでなく会計年度職員も参加し情報を共有し連携を図っている	B	B		【学校との交流の場を開拓し提案する】 ・卒園児のいる学校の公開授業へ2名以上の保育教諭が参加する ・職員同士の交流の場(夏休み期間に実施する)
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	地域(地域住民や施設)との交流を通し園だけではできない体験をする機会を積み重ね子どもの体験を豊かにしている	地域の方々との協力の基、プラム狩りやさつま芋掘り、花育、うさぎとの触れ合いなど様々な体験をすることが出来た。その日だけの体験にならないよう継続的な繋がりや工夫をしていきたい。	B	B		【地域の方々との交流の場を園から発信する】 ・JAとの年間計画を持ち、プラムの木、さつま芋畑など何度か訪問する機会を増やす
		(1)信頼される園づくりの推進					